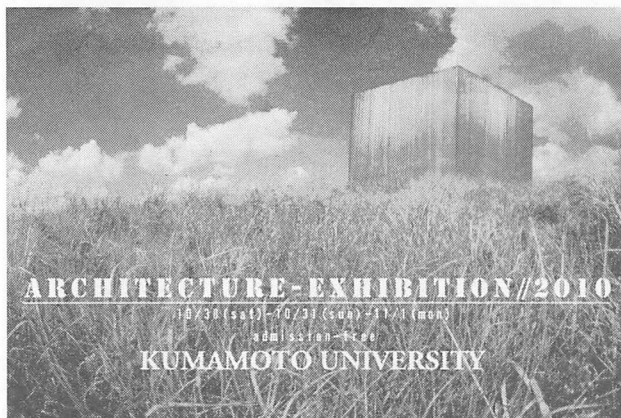


建築展 2010 「ダンボールの可能性」

建築学科 3年 草野佑 担当教員：越智健之

1. 建築展とは？



毎年建築学科では「建築展」という学生有志による展覧会を行っています。自分たちでテーマを設定し、大学内だけでなく外部へと自分たちの成果を発信していくことを目的としています。今年の建築展では学部3年生が中心となり、実際に手を動かして一つの空間を作り上げることを目的としました。自分たちが作った仮設の建築物を多くの人に体験してもらい、建築の面白さ・ものづくりの面白さを伝えるために一年間活動を行ってきました。

2. ダンボールという素材

「手を動かして一つの空間を作りあげる」というテーマを軸に企画を進め、実際に出来上がったもののようにして外部へと発信していくのか議論を重ねました。また様々な素材の特性を調査する中でダンボールという素材に着目し、日々大量に排出される廃ダンボールを私たちの工夫で何か新しいものにできるのではないかと考え、素材の特性、強度等の実験や形態のスタディを数ヶ月繰り返し、一辺 2.7m の立方体の空間を製作する事に至りました。その過程で多くの発見があり、図1のようにダンボールの断面が見えるように積み上げることで多孔質の面が構成され、視線の角度や明暗の関係性から、一枚の紙であったダンボールが不思議な空間へと発展していきました(図2)

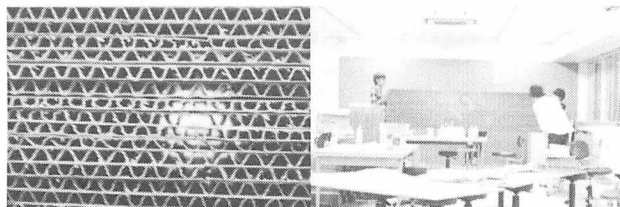


図1

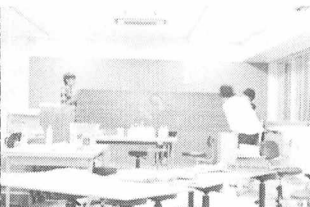


図2

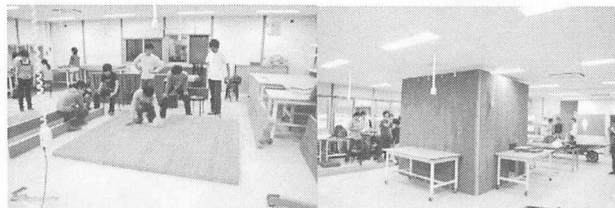


図3

図4

短尺状のダンボールを積層させパネル(図3)を作り、木工用ボンドとボルトで接合することでキューブを作成。(図4)

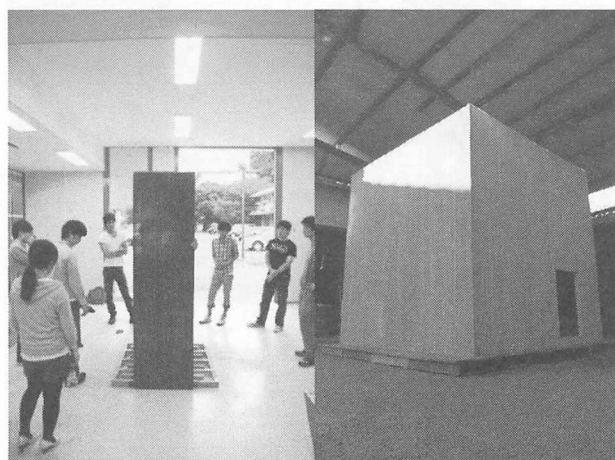


図5 制作風景

図6 キューブ全景

3. 巡回展

ダンボールで覆われた多孔質の空間を制作して様々な場所を巡回し、仮設の建築物として多くの人に鑑賞してもらおう企画を行いました。その企画の中で完成した空間がどのような特性を持っているのか、視線の抜け方や光との関係、風との関係など、ダンボールで覆われた空間その物の性能を調査しました。

またその背景には、様々な環境下での内部と外部の変化、ダンボールという素材に対する人々の反応など、そこで偶然に起きるアクションを記録・比較することでダンボールという素材の可能性や自分たちが制作した空間の意味を読み取ることができるのではないかと考えがありました。

<日程>

- ・10月10日 河原町 「河原町アワード2010」
- ・10月16日 下通りアーケード
- ・10月23日 阿蘇(湯浦牧場)
- ・10月24日 上通りパビリオン→雨天のため中止
- ・10月31~11月3日 熊粋祭 百周年記念館前

「河原町アワード 2010」10月10日(日)

多くの人に段ボールによって囲まれた空間の中に入ってもらい、多孔質空間で起きる内と外との不思議な関係を体験してもらいました。イベントには県外からも建築関係、アート関係の方々に参加されており、多くのアドバイスや感想を頂きました。

キューブの内部にいる人と、その奥に立っている人との関係が非常に印象的です。(図7) 素材その物のイメージを感じない表情を見ることができました。



図7 河原町早川倉庫

「ART PLEX KUMAMOTO」10月16日(土)

熊本市下通りアーケード三国屋前にて制作した空間を設置しました。ここではキューブの側面の1つを取り外し、イベントのインフォメーションブース(図8)として活用しています。また、アーケードという敷地の特性(キューブと人との距離の変化が大きい場所)を生かして、その透け方の変化を利用した広告方法の提案を行いました。作品との距離感によって多様な見え方を発見することができたと思います。



図8



図9 制作風景

図10 内観

「阿蘇(湯浦牧場)展示」10月23日(土)

大自然の中にダンボールのキューブを設置し、定点カメラで記録しました。キューブに用途を付加するのではなく、ダンボール自体の性能や耐久性の実験を行いました。



図11

濃霧と突風によってキューブが崩壊するというハプニングに見舞われ、ダンボールを建材として用いる難しさや、自然環境がいかに強大であるかを痛感する巡回だったと感じています。

「建築展2010 百周年記念館前展示」10月30日(土)～11月1日(月)

巡回を通して様々な旅をしてきたダンボールの空間を実際に体験してもらいました。

当日は天候にも恵まれ、成功できたと感じています。多くの方々に来場していただき、ダンボール製のキューブを体験していただきました。近くで見るとダンボールの重厚なイメージですが、離れると透ける箱となり、多孔質の空間の面白さが伝わったのではないかと思います。

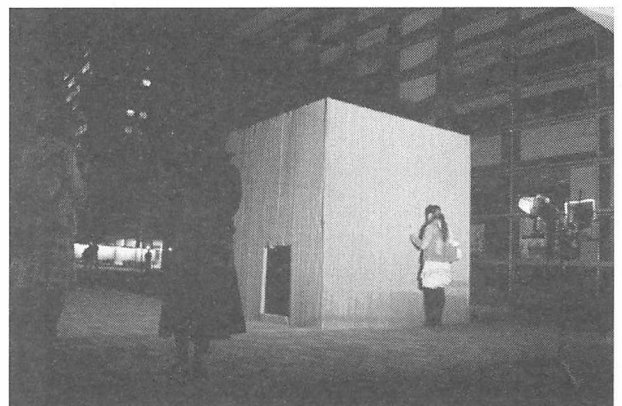


図12

「建築展2010 一号館6階屋内展示」10月30日(土)～11月1日(月)

建築展本番には工学部一号館6階製図室をダンボールを用いたインスタレーション空間とし、これまでの巡回の様子(写真・映像)やダンボールの可能性・多孔

質の壁の視覚的現象を抽象化した装置などの展示を行いました。来場して下さった方には、アンケートを実施し多くのご意見・ご感想を頂くことができました。



図 13

図 14

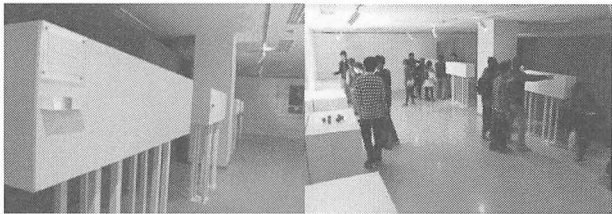


図 15

図 16

また、阿蘇での展示においてダンボールのキューブが崩壊したときの様子を映像で展示しました。(図 17)

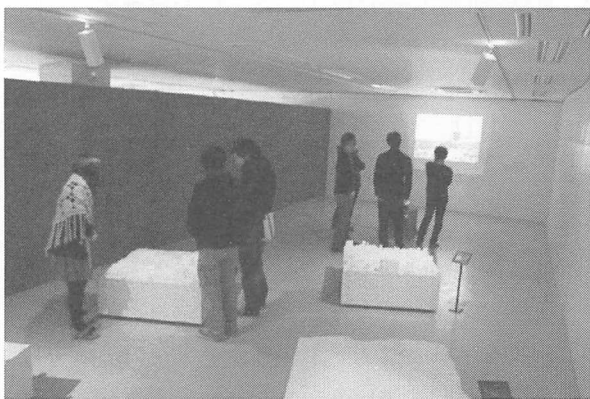


図 17 映像・都市模型展示

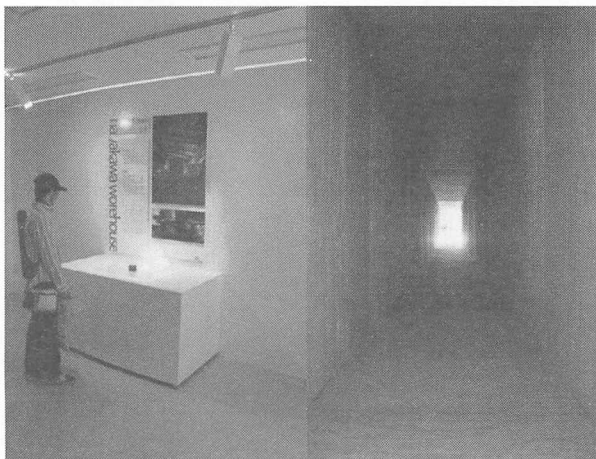


図 18 巡回展展示

図 19 段ボールチューブ

3. 建築展を終えて

無事建築展を終えることができたのは、多くの方々が私たちに協力して下さったからだと思っています。様々な出会いがあり、助言を頂き、建築展がどんどん

大きくなっていくのを感じながら約1年間活動してきました。学生同士でぶつかることや60人全員で活動できない時もあり本当に不安だらけでしたが、ものを作る喜びや、建築の楽しさを忘れずに活動できたことが成功へとつながったのではないかと思います。アンケートや来場者の方々の反応、先生方のご指摘の中には、多くの反省点や改善点もありました。協力していただいた大学関係者の方々、外部の皆様には本当にお世話になったと感じています。

私たちの建築展は終わりましたが、この経験が今後の学生生活や建築に携わっていく中での財産になればと思います。本当にありがとうございました。



図 20 展示空間設営風景



図 21 展示空間設営風景



図 22 展示空間設営風景